

県民のくらし

11月13日は県民の日です。県民が県の歴史を考え、自治意識を高めて郷土の発展を願う日として昭和43年に制定されたものです。今回のインフォメーションは、県民の生活面のデータを集めてみました。ある程度県民の姿が浮かんでくるのではないのでしょうか。

県の人口と世帯は、昭和63年10月1日現在2,797,696人、797,611世帯となり、都道府県別では第12位(昭和60年国勢調査)です。平均家族人員は3.51人で、昭和25年の国勢調査の5.43人より1.92人減少し核家族化が進んでいます。

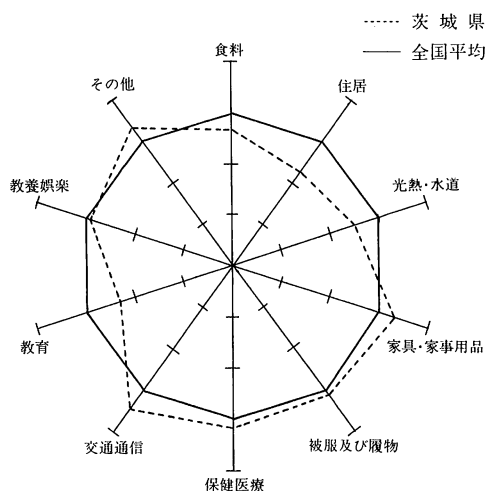
統計課「常住人口調査」

1. 収入と支出

表一は、昭和62年の1世帯当たりの年平均1ヵ月間の収入と支出の構成比を、全国平均と水戸市で比較したものです。図一1とともにみると、水戸市の特徴が分かります。

- 実収入に占める妻の勤め先収入が、全国平均より2.13ポイント高く10.45%となっている。(パートなどで、家計を助けている?)
- 平均消費性向が全国平均より3.05ポイント高い。
- エンゲル係数が、全国平均より2.42ポイント低い。全国平均に比べ消費に向ける割合が高いにもかかわらず食料費の割合が低い。(所得水準が高い? 茨城県の県民性、風土に特徴がある?)
- 費用項目別にみると、住居費、教育費、光熱・水道費、食料費などの生活の基本的費用項目が低い。
- 特に住居費は、指数で75.63、構成比で1.25ポイント、教育費が指数で77.12、構成比で

図一1 1世帯当たり費目別消費支出指数



1.05ポイントと低くなっている。(持ち家比率が高い? 大学進学率が低い?)

- 一方、交通・通信、その他の消費支出、家具・家事用品などの耐久消費財や交際費を含む費用項目で高い。
- 高通・通信費が、指数で115.55と最も高く、次いでその他の消費支出112.20、家具・家事用品111.01と、全国平均より指数で10ポイント以上多く支出している。(自家用車の普及率が高い? 交際費が多い? 家具・電機製品の購入が多い?)

2. 耐久消費財の所有状況

一方耐久消費財の普及は、三種の神器時代、3C時代といわれて、電気洗濯機、テレビ、自動車と次々に家庭に普及してきました。現在の三種の神器や3Cとは、どんな消費財なのでしょう。

表一2と図一2は、1000世帯当たり所有状況を昭和57年から昭和62年まで表したものです。それ

県民の日にちなんで

統計インフォメーション No.16から

表一 1 世帯当たり年平均1ヵ月間の収入と支出の構成比（勤労者世帯）

(単位：%)

	水戸市	全国平均	指数
実収入	100.00	100.00	100.00
勤め先収入	94.39	93.66	100.78
世帯主収入	83.37	81.68	102.07
妻の収入	10.45	8.32	125.60
その他の収入	5.61	6.34	88.49
実支出	82.76	80.16	103.24
消費支出	66.68	64.25	103.78
非消費支出	16.08	15.91	101.07
家計黒字分	17.24	19.84	86.90
消費支出	100.00	100.00	100.00
食料	22.39	24.81	90.25
住居	3.88	5.13	75.63
光熱・水道	4.42	5.29	83.55
家具・家事用品	4.74	4.27	111.01
被服及び履物	7.28	7.04	103.41
保健医療	2.58	2.45	105.31
交通通信	11.74	10.16	115.55
教育	3.54	4.59	77.12
教養娯楽	8.63	8.81	97.96
その他の消費支出	30.80	27.45	112.20
平均消費性向	79.45	76.40	103.99
エンゲル係数	22.39	24.81	90.25

資料：総務庁「家計調査(昭和62年度)」指数＝水戸市/全国平均×100(全国＝100)

をみると、新たな耐久消費財の家庭への普及はあまりなく、同一財でも高級品へシフトし、従来型は横ばいなし減少傾向がみられる。

- ビデオテープレコーダーが、新たな財として登場し急激に増加している。新3Cの資格のある財ではないでしょうか。(6割ちかい家庭で持つ計算、5年間で3.6倍になっている。)
- 自動車、ミシンは、一家に1台強の計算。

- テレビは、一家に2台、うち1台は音声多重型テレビの計算。
- ルームエアコンは、8割弱の家庭で持つ計算。
- 電子レンジは、7割ちかい家庭で持つ。
- 電気冷蔵庫は、200ℓ以上が一家に1台強、もう1台持つ家庭が3割ちかくある。

3-1 年間の余暇活動

表一3と図一3は、15歳以上の積極的余暇活動の年間の行動者率を、全国と茨城県、茨城県の男女を比較したものです。全国、県(男、女)とも趣味・娯楽、旅行・行楽、スポーツ、学習・研究、社会奉仕の順になっています。全国との比較では、茨城県が旅行・行楽で高く、それ以外は全国水準を下回る。男女比較では、男が社会奉仕で下回り、それ以外は高くなっている。特にスポーツで、その差が著しい。

- 趣味・娯楽は、全国88.0%、県86.0%(男87.7%、女84.4%)

で、県が2ポイント低く、男が3.3ポイント高い。

- 旅行・行楽は、全国81.9%、県83.1%(男84.8%、女81.5%)で、県が1.2ポイント、男が3.3ポイント高い
- スポーツは、全国76.3%、県73.6%(男81.6%、女65.9%)で、県が2.7ポイント低く、男が15.7ポイント高い。
- 学習・研究は、全国35.5%、県30.0%(男

表一 2 1,000世帯当たり主要耐久消費財の所有状況 (茨城県消費実態調査)

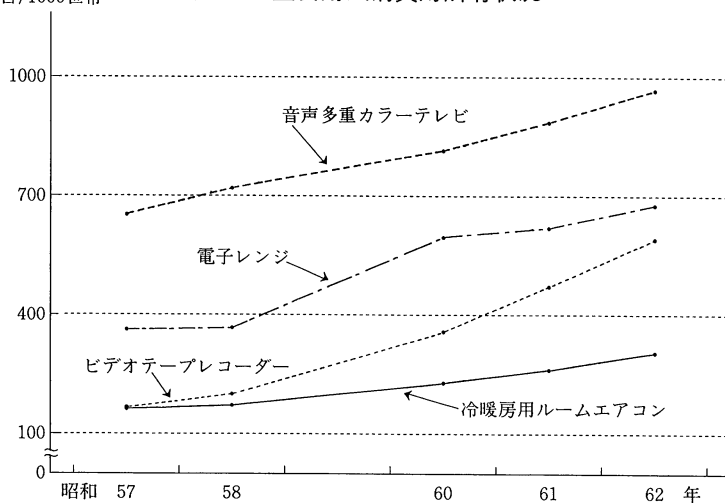
(単位:台)

	57年	58年	60年	61年	62年	指数	
電子レンジ	363	368	597	619	674	186	
ミシン	1 093	1 048	1 077	1 056	1 041	95	
ルームエアコン	冷房用	381	447	382	436	121	
	冷暖房用	165	170	227	263	184	
カラーテレビ	音声多重	654	720	814	888	148	
	その他	1 026	1 029	1 098	1 033	1 049	102
ビデオテープレコーダー	162	200	356	473	589	364	
乗用車	新車で購入	707	688	745	800	831	118
	中古で購入	311	312	345	338	329	106
電気冷蔵庫 (ガスも含む)	200ℓ以上	904	964	967	985	1 039	115
	その他	299	244	279	273	237	79

指数: 62年/57年×100 (57年=100)

台/1000世帯

図一 2 主要耐久消費財所有状況



30.6%, 女29.4%)で, 県が5.5ポイント低く, 男が1.2ポイント高い。

- 社会奉仕は, 全国25.2%, 県24.9%(男24.3%, 女25.5%)で, 県が0.3ポイント低く, 男が1.2ポイント低い。

3-2 旅行・行楽の年間行動者率

表一 4 と図一 4 は, 旅行・行楽の形態, 相手及び行先で分けた行動者率です。これをみると, 国内旅行は全国73.1%, 県73.8%(男76.9%, 女70.8%), 国外旅行は全国4.7%, 県4.1%(男5.3%, 女2.9%)となっている。

- 県は, 国内旅行・行楽が高く, 国外旅行・行楽が低い。
- 旅行の相手として, 団体が

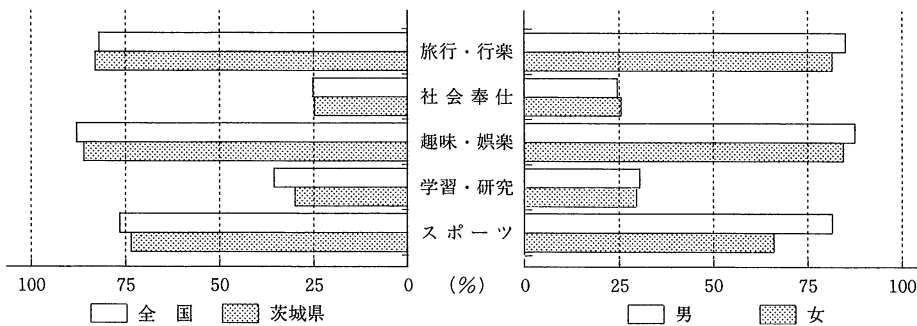
高く, 家族, 友人・知人との旅行・行楽が低い。(地域などの付き合いが多く, 家族サービスが少ない?)

- 特に, 地域での団体旅行・行楽が高い。(地域との付き合いが濃い?)

表一三 行動5区分別年間の行動者率(社会生活基本調査)(昭和61年) (単位:%)

	スポーツ	学習・研究	趣味・娯楽	社会奉仕	旅行・行楽
全 国	76.3	35.5	88.0	25.2	81.9
茨 城 県	73.6	30.0	86.0	24.9	83.1
男	81.6	30.6	87.7	24.3	84.8
女	65.9	29.4	84.4	25.5	81.5

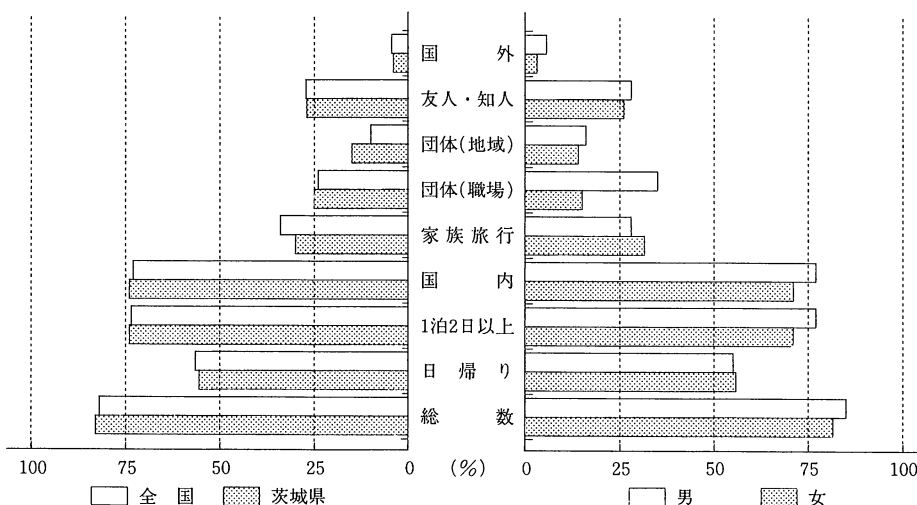
図一三 行動5区分別年間の行動者率(昭和61年)



表一四 旅行・行楽の種類別行動者率(社会生活基本調査)(昭和61年) (単位:%)

	総 数	日 帰 り	一泊二日 以 上	国 内				友 人・知 人	国 外
				家 族	団 体(職 場)	団 体(地 域)	友 人・知 人		
全 国	81.9	56.5	73.4	73.1	33.8	24.0	9.9	27.1	4.7
茨 城 県	83.1	55.5	74.0	73.8	29.8	24.9	15.1	26.9	4.1
男	84.8	55.2	77.1	76.9	27.8	34.9	16.0	28.1	5.3
女	81.5	55.7	71.1	70.8	31.7	15.1	14.2	25.8	2.9

図一四 旅行・行楽の種類別行動者率(昭和61年)



- 男女の比較では、国内、国外旅行・行楽とも男が高い。
- 男は、一泊二日以上で高く、日帰りでは、女が若干高い。
- 男は、団体旅行・行楽で特に高く、家族旅行・行楽で低い。(男は家族サービスが足りない)

資料:総務庁「家計調査」,「社会生活基本調査」,県「消費実態調査」「常住人口調査」より収集。

注) 耐久消費財は1000世帯に換算したもので、普及率とは意味が異なる。

注) 余暇活動、旅行等の行動率は、複数回答のため合算しても100パーセントにならない。

(統計課・企画分析グループ)

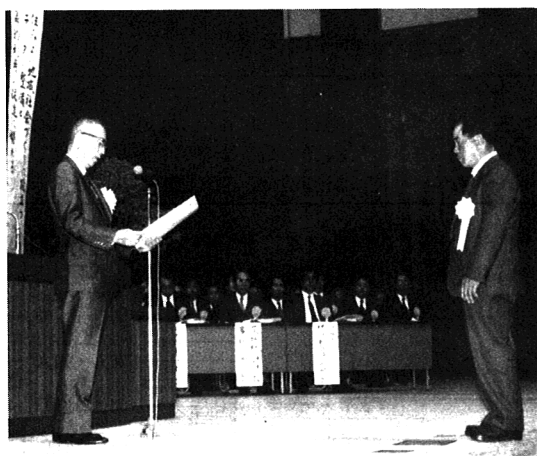
第30回茨城県統計大会開催



第30回茨城県統計大会は、秋晴れに恵まれた去る11月11日(金)、県立県民文化センター大ホールにおいて、統計関係者1,200余名の参加を得て盛大に開催されました。

この大会は、統計関係者の一層の自覚と認識を深め、統計事業の発展とともに県民に対する統計思想の普及を図るため、昭和34年以来毎年開催されてきたもので、今年は30回目にあたる記念すべき大会でありました。

大会は、武田県統計課長の開会の言葉で幕が開き、はじめに主催者を代表して竹内副知事のあいさつがあり、つづいて表彰式が行われました。今回は、統計調査に永年従事され功績の顕著な方々に対する県知事表彰、県統計協会総裁表彰のほか、30回大会を記念して統計調査員として30年以上各種調査に従事された方で、特に、国勢調査に60年調査を含め過去7回以上従事し、今後も引き続き調査員として活躍が期待される方々に県統計

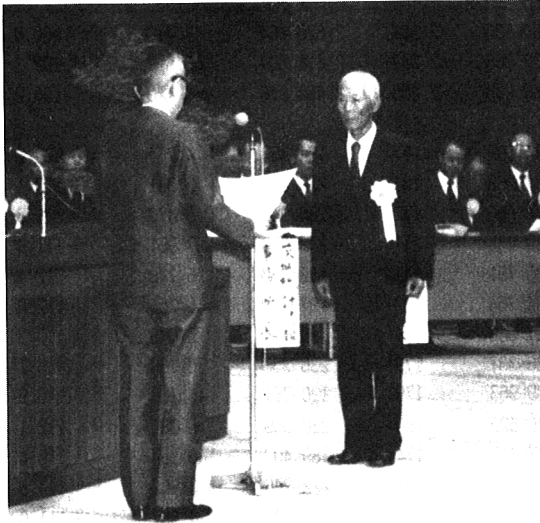


統計功労者表彰

協会総裁からの特別表彰もあり、第39回茨城県統計グラフコンクール入賞者等を含め約560名が栄えある受賞者となりました。

引き続き、来賓の方々からお祝いの言葉や統計功労者に対するねぎらいの言葉が贈られ、続いて統計功労者を代表して水府村統計調査員長鳴元利

統計の充実, 発展を期して



統計功労者表彰



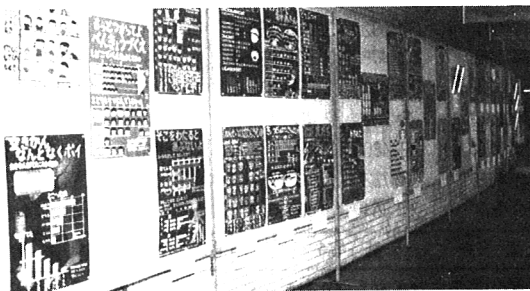
決意表明



受賞の喜び



統計グラフコンクール入賞者表彰



統計グラフコンクール入賞作品展示

氏の決意表明と、統計グラフコンクール入賞者を代表して土浦市立東小学校2年岩田史子さんの受賞の喜びが述べられました。

最後に、大会にあたり統計関係者の決意を広く表明するため大会宣言が満場の拍手によって採択され、式典は終了しました。

また、今大会の式典には、介添えとして'88ミスグリーンふるさとのお二人にお手伝いをお願いして、大会に花を添えていただきました。

引き続きアトラクションに移りましたが、今回は昭和62年度NHKのど自慢チャンピオン大会でグランドチャンピオンになった水戸市出身の埴圭子さんによる歌謡ショウが、茨城放送の野村邦夫アナウンサーの司会により披露され、さかんな拍手のうちに、とどこおりなく幕を閉じることができました。

大会開催にあたり、御協力をいただきました関係各位に対し、誌上をお借りして厚くお礼申し上げます。

(統計課・統計指導グループ)